

31H 田下 威希 32H 松村 ひかる 34H 吉村 月都
 35H 中村 友紀 36H 山崎 悠聖

■課題

若者に地元の企業の魅力を知ってもらうにはどうすればよいか。

■解決策

学生や就職活動者に対してインターンシップや企業説明を行い、地元で就職する若者を増やす。

■現状（課題の背景）

＜若者流出の現状＞

- ・ 15歳～64歳までの生産年齢人口⇒1990年代後半から減少し続けている。
 65歳以上の老年人口⇒1950年代を境に徐々に増加している。
 石川県の総人口は増加していない⇒高齢化率は高まる一方で若者は地元を離れていく傾向がある。
- ・ 10代…県内へ転入する人より県外に転出する人が多い⇒「転出超過」
 20代…県外に転出する人より県内へ転入する人が多い⇒「転入超過」
- ・ これらの理由⇒高等教育機関が充実している石川県に県外からやって来る人が多い、大学卒業やその後の就職を機に県外へ出て行く人が多い。

＜若者の意識＞

- ・ 就職活動における「企業の魅力と働き方」に関する意識調査

〈結果〉

「社内の雰囲気が良い」⇒75%（他の項目と比較して突出）

働き方について気になること

「どのような社員が働いているか」

「時間外労働やサービス残業がないか」の2つ。

どちらも54.9%と半数以上が回答。

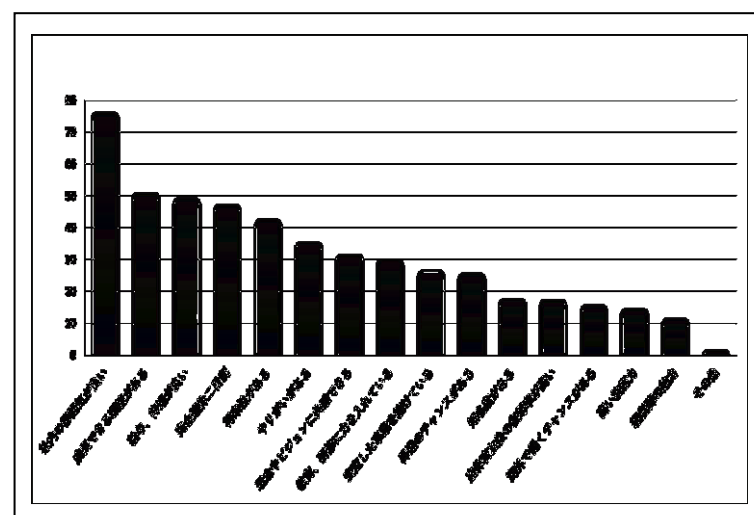



図1 どのような企業に魅力を感じるか

■具体的内容

- ・ 石川県内の学生や、就職活動をしている若者を中心にインターンシップや企業説明、紹介を行う。
 ※現在石川県ではジョブカフェなどが活動している。
- ・ より多くの企業と連携し職業の選択肢を拡げる。

■効果

- ・ 現在15～64歳の生産年齢人口の流出が高い割合を占めている。

・ 〈原因〉 進学先、就職先を求めて他県へ  人口流出

・ 〈解決策〉 インターンシップや企業説明会を行うことで地元の企業について知ってもらい、県内で働く若者を増やす。

※コロナ禍によりリモートで参加できるようにする必要がある。

・ 〈結果〉

人口の流出を抑制するとともに若者の増加による人口増加も期待できる。